

高 校 入 試

思考力の 特訓講座

～パターン別で入試の思考力・表現力問題に強くなる～

国語

CONTENTS

章名								単元名	ページ	学習日
1章 説明的文章										
2章 文学的文章										
3章 図版・資料課題										
8	7	6	5	4	3	2	1			
課題を見つけて解決する	複数資料を読みとりその情報を活用する	文章中の表現の効果や役割について考える	人物の心情を多面的に捉えて説明する	他者の意見を吟味し自分の意見を構築する	意見の違いを把握し課題を解決する	情報を正しく読みとって考えを述べる	因果関係を踏まえて文章内容をまとめる			
44 〜 48	38 〜 43	32 〜 37	26 〜 31	20 〜 25	14 〜 19	8 〜 13	2 〜 7			
/	/	/	/	/	/	/	/			

1

1章 説明的文章①

因果関係を踏まえて文章内容をまとめる

ねらい

事柄とつしの因果関係を正しく理解したうえで、文章内容をまとめよう。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(①・②…は形式段落を表す。)

問

傍線部①と②について、次の問いに答えなさい。

- (1) 傍線部①の発芽のしくみについて、次のようにまとめました。(A) (

(D) にあてはまる語句を、文章の中からそれぞれ七字以上十字以内で抜き出さない。

- Ⅰ 発芽のタイミングを知るために起こるべきこと
 Ⅱ 種皮の中にある (A) を持つ (B) が、種子からなくなること
 Ⅲ Ⅰからわかる、発芽に必要なこと
 Ⅳ 発芽するときに必要な水だけでなく、(C) が十分あること
 Ⅴ Ⅱが満たされないとどうなるか
 Ⅵ 水が不足して、芽生えはたちまち (D)

(2) 傍線部②の種子の発芽のしくみでの、(1)のⅠとⅡの内容にあたることとして最も適当なものを、次のア～クから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- Ⅰ ア 微生物などによって種皮が酸素を透過しない状態が続くこと。
 イ 微生物などによって水分が運ばれて種皮がやわらかくなること。
 ウ 微生物などによって堅くて厚い種皮が形成されること。
 エ 微生物などによって種皮が分解されてやわらかくなること。
 オ 散布された環境が変化したこと。
 カ 発芽したあととひどい乾燥や低温が起らないこと。
 キ 水分が十分にあり、肥沃な土壌であること。
 ク 発芽すべき時期がやってきたこと。

考え方

ステップ1 事柄どうしの因果関係を、順を追って捉えよう。

(1) 「乾燥した地域に生きている植物の種子」の発芽のしくみ (4)～(6)段落

・発芽の前提となること (4)段落

「発芽する際、もともと気をつけねばならないのは、どこにどんなことが書かれていたかを確認」

① 「発芽後には水が不足すれば、たちまち」があるかどうか

② 「発芽後には水があるかを知るしくみが存在する (5)段落」

← 発芽後にも水があるかを知るしくみが存在する (5)段落

・発芽のタイミングを知るために起こるべきこと (6)段落

「種皮の中に、発芽を阻害する物質を含んでいる。これらの物質は、水に溶け

る性質を持っている」

↓ 「種子が水につかれば、阻害物質は水に溶けて流れ去る」 (Ⅱ発芽後にも使えるほどの) ③ がまわりにあるときにだけ起こること

↓ 「からだから阻害物質がなくなり」発芽する。

文章では、発芽後に水が必要な事情を述べたあと、発芽後に水があるのを知るための実際のしくみを説明している

ポイント1 文章の構造を押さえ、因果関係を整理しながら該当箇所を捉える。

ステップ2 捉えた因果関係を別の例の説明にあてはめよう。

(2) 「種皮が硬かったり発芽しない種子」の発芽のしくみ (7)～(9)段落

・堅くて厚い種皮が微生物によって分解されてやわらかくなる (8)段落

・微生物が堅くて厚い種皮を分解する ↓ 微生物がまわりに多くいる : Ⅰの内容

・微生物が多くいる ↓ 水分が十分にあり、肥沃な土壌である

(Ⅱ発芽後の) ④ に都合がいい環境である Ⅱの内容

ポイント2

文章のほかの部分やまとめの文、選択肢の要素を、それぞれの説明項目に対応させる。

答 (1)

D	C	B	A
7	7	7	7
10	10	10	10

Ⅰ () () ()
 Ⅱ () () ()

解答と解説

国語

1 因果関係を踏まえて文章内容をまとめる

1 因果関係の整理

「因果関係」を踏まえて、文章の内容をまとめる。

① 種子は、いったん発芽をはじめれば、あと戻りしてはならない。また、種子が発芽して、芽生えと成長すれば、生涯、移動することはない。としたら、どんな場所で発芽をはじめれば、その芽生えの生涯の運命を決めてしまう。だから、種子は、生きていける場所を慎重にみきわめて、発芽しなければならない。

② 種子たちは、どのように「時」と「場所」を知るのだろうか。
③ 多くの栽培植物の種子は、発芽の三条件である適切な温度、水、空気（酸素）があれば、発芽する。しかし、自然の中で自分の力で生きる植物の種子は、そんなに簡単に発芽しない。それぞれの植物の種子は、発芽のタイミングを知る方法をつけている。

④ 「乾燥した地域に生きている植物の種子は、適切な温度と水と空気があっても、発芽してはならない。発芽する際、もともと水をためておかなければならない。発芽後にも使える水があるかどうかである。もし、発芽後に水が不足すれば、芽生えは、たちまち枯死してしまう。それでは、種子たちは、発芽するときに必要なだけ水で、発芽した後に根を張りめぐらすのに使える水が十分あるかを、発芽の際にみきわめなければならない。

⑤ 種子たちは、どのようにして、「発芽したあとにも水がある」ことを知るのだろうか。「種子たちが発芽すると、そんなことまで考えていないだろう」と思われるかも知れない。「種子がはたと発芽しているか」とは別に、発芽したあとにも水があるか。このことを、種子たちが知るためのしくみは存在する。

⑥ 乾燥地帯に生きているいくつかの植物は、種皮の中に、発芽を阻害する物質を含んでいる。これらの物質は、水に溶ける性質を持っている。だから、多量の雨が降ると、発芽のタイミングを知るために必要な水が、種皮からなくなる。発芽するときに必要な水が、発芽するときに不足する。このことを、種子たちは、発芽の際にみきわめなければならない。

⑦ 乾燥地の種子の発芽のしくみで、①②③④⑤の内容にあたることとして最も適切なものを、次のア～エから一つずつ選び、記号で答えよ。
ア 微生物などによって種皮が腐敗して、発芽の阻害物質が壊れる。
イ 微生物などによって水分が運ばれて種皮がやわらかくなる。
ウ 微生物などによって種皮が分解されてやわらかくなる。
エ 散布された環境が変化し、発芽の阻害物質が壊れる。
オ 散布された環境が変化し、発芽の阻害物質が壊れる。
カ 水分が十分にあり、肥沃な土壌である。
キ 発芽するべき時期がやってきたこと。

⑧ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
⑨ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
⑩ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
⑪ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
⑫ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
⑬ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
⑭ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
⑮ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
⑯ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
⑰ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
⑱ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
⑲ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
⑳ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㉑ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㉒ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㉓ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㉔ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㉕ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㉖ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㉗ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㉘ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㉙ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㉚ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㉛ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㉜ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㉝ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㉞ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㉟ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㊱ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㊲ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㊳ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㊴ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㊵ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㊶ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㊷ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㊸ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㊹ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㊺ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㊻ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㊼ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㊽ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㊾ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。
㊿ 発芽したあとにも使える水があるかどうか。

① 発芽のタイミングを知るために必要な水が、種皮からなくなる。発芽するときに必要な水が、発芽するときに不足する。このことを、種子たちは、発芽の際にみきわめなければならない。

P. 253 例題

例題

① ② 段落：種子にとつての発芽の意味と、話題の提示
種子：発芽をはじめれば、あと戻りしてはできず、芽生えに成長すれば、移動することはない
生きていける場所を慎重にみきわめて、発芽しなければならない

③ ④ 段落：種子がどのように発芽の「時」と「場所」を知るかの説明
多くの栽培植物の種子：発芽の三条件（① 適切な温度、水、空気（酸素））があれば発芽する
自然の中を自分の力で生きる植物の種子：発芽のタイミングを知る方法を身につけている

⑤ ⑥ 段落：乾燥した地域に生きている植物の種子の発芽
適切な温度・水・空気があっても発芽してはならない
もともと水をためておかなければならないのは、発芽後にも使える水があるかどうか
発芽後に水が不足すれば、芽生えは、たちまち枯死する

⑦ ⑧ 段落：発芽した後に根を張りめぐらすのに使える水が十分あるかを、みきわめなければならない
「発芽したあとにも水がある」ことを知るのか？
種皮の中に、水に溶ける性質を持つ、発芽を阻害する物質を含んでいる
多量の雨が降り種子が水につかる
阻害物質は水に溶けて流れ去る
からだから阻害物質がなくなり、発芽する
発芽を阻害する物質が発芽のタイミングをはかる役目をする

⑨ ⑩ 段落：種皮が硬かったり厚かったりして、発芽しない種子の発芽
堅くて厚い種皮が微生物によって分解されてやわらかくなると、発芽する
微生物が多量に多いのは、水分が十分にあり、肥沃な土壌であること
種子にとって、発芽後の成長に都合がいい状態であることを意味する
適切な場所が発芽する一つのしくみである
同じ年に結実した種子でも、散布された環境により、発芽時期は大きく異なる

⑪ ⑫ 段落：発芽する時期が異なることの意味
同じ年、同じ株、同じ花にできた種子でも、発芽する時期が異なる
種族の存続に有利
長い間存続してきた植物種族の大切な性質

⑬ ⑭ 段落：発芽したあとにも使える水があるかどうか
⑮ ⑯ 段落：発芽したあとにも使える水があるかどうか
⑰ ⑱ 段落：発芽したあとにも使える水があるかどうか
⑲ ⑳ 段落：発芽したあとにも使える水があるかどうか
㉑ ㉒ 段落：発芽したあとにも使える水があるかどうか
㉓ ㉔ 段落：発芽したあとにも使える水があるかどうか
㉕ ㉖ 段落：発芽したあとにも使える水があるかどうか
㉗ ㉘ 段落：発芽したあとにも使える水があるかどうか
㉙ ㉚ 段落：発芽したあとにも使える水があるかどうか
㉛ ㉜ 段落：発芽したあとにも使える水があるかどうか
㉝ ㉞ 段落：発芽したあとにも使える水があるかどうか
㉟ ㊱ 段落：発芽したあとにも使える水があるかどうか
㊲ ㊳ 段落：発芽したあとにも使える水があるかどうか
㊴ ㊵ 段落：発芽したあとにも使える水があるかどうか
㊶ ㊷ 段落：発芽したあとにも使える水があるかどうか
㊸ ㊹ 段落：発芽したあとにも使える水があるかどうか
㊺ ㊻ 段落：発芽したあとにも使える水があるかどうか
㊼ ㊽ 段落：発芽したあとにも使える水があるかどうか
㊾ ㊿ 段落：発芽したあとにも使える水があるかどうか

① 発芽のタイミングを知るために必要な水が、種皮からなくなる。発芽するときに必要な水が、発芽するときに不足する。このことを、種子たちは、発芽の際にみきわめなければならない。

① 発芽のタイミングを知るために必要な水が、種皮からなくなる。発芽するときに必要な水が、発芽するときに不足する。このことを、種子たちは、発芽の際にみきわめなければならない。

2 発芽のタイミングを知るしくみの関係を説明

発芽のタイミングを知るしくみの関係を説明

発芽の条件を提示

発芽の条件を提示

発芽の条件を提示

発芽の条件を提示

発芽の条件を提示

発芽の条件を提示

発芽の条件を提示

発芽の条件を提示

発芽の条件を提示